Creative Enzymes®

アデノシルコバミンキナーゼ

Cat. No. EXWM-2985

Lot. No. (See product label)

はじめに

□明	サルモネラ・チフミュリウム LT2では、嫌気的条件下で、CobU (EC 2.7.7.62 および EC 2.7.1.156)、CobT (EC 2.4.2.21)、CobC (EC 3.1.3.73) および CobS (EC 2.7.8.26) がヌクレオチドループ組立□路における反□を触媒し、アデノシルコビナミド (AdoCbi) をアデノシルコバラミン (AdoCbl) に□換します。CobT と CobC は、5,6-ジメチルベンジミダゾールの活性化に関与し、5,6-ジメチルベンジミダゾールをそのリボシドであるα-リボザールに□換します。ヌクレオチドループ組立□路の第二の分岐はコビナミド (Cbi) 活性化分岐であり、ここで AdoCbi またはアデノシルコビナミド-リン酸が Cob U によって活性中間体 AdoCbi-GDP に□換されます。アデノシルコバラミン生合成の最終ステップは、AdoCbi-GDP と α-リボザールの縮合であり、これは EC 2.7.8.26、アデノシルコビナミド-GDP リボザール転移酵素 (CobS) によって触媒され、アデノシルコバラミンが生成されます。CobU は、キナーゼ (EC 2.7.1.156) とグアニル転移酵素 (EC 2.7.7.62、アデノシルコビナミド-リン酸グアニル転移酵素) の両方の活性を持つ二機能酵素です。しかし、両方の活性が常に必要なわけではありません。キナーゼ活性は、S. typhimurium がコビナミドを同化しているときのみ機能すると提案されていますが、グアニル転移酵素活性は外因性コビナミドの同化とアデノシルコバラミンの新規合成の両方に必要です。
別名	CobU; アデノシルコビナミドキナーゼ/アデノシルコビナミド-リン酸グアニル転移酵素; AdoCbiキナーゼ/AdoCbi-リン酸グアニル転移酵素

製品情報

形態	液体または凍結乾燥粉末
EC番号	EC 2.7.1.156
CAS登□番号	169592-51-2
反□	RTP + アデノシルコバイアミン = アデノシルコバイアミンリン酸 + RDP [ここをクリックして記号の定義を参照してください]
備考	このアイテムはカスタム生産が必要で、リードタイムは5□9週間です。ご要望に□じてカスタム生産が可能です。

保管・発送情報

保存方法	短期間は +4 ℃ で保管してください。長期間保管する場合は -20 ℃~-80 ℃ で保管してください。